

■■受験対策ミニ講座 4号■■

秋はイベントの多い季節ですが、こんな時こそ、集中力を高めて効果的に勉強しましょう。先輩達の「合格体験記」に時間を生み出すヒントがあるかもしれません。「合格体験記」は当協会ホームページ「養成所ニュース」に収録しています。

今回の科目は「現代社会と福祉」ですが、内容的には貧困対策の歴史、ソーシャルワークの歴史を問うもので、社会福祉の基礎となる知識、頻出項目です。

第4問「現代社会と福祉」

[28回24] イギリスにおける貧困対策の歴史に関する記述のうち正しいものを1つ選べ。

- 1 新救貧法（1834年制定）は、劣等処遇の原則を否定した。
- 2 慈善組織協会（1869年設立）は、救済に値する貧民に対する立法による救済を主張した。
- 3 ブースは、ロンドン貧困調査から「貧困線」という概念を示した。
- 4 老齢年金法（1908年成立）は、貧困高齢者に資産調査なしで年金を支給した。
- 5 ウェップ夫妻は、「社会保障計画」を提唱した。

■Plus Column

【模試を受けよう！】

みなさん、受験対策講座は申し込みましたか？この際ですから、積極的にやれるだけのことはやりましょう！！

模擬試験も機会があったら是非、受けてください。会場まで出かけられない人は「在宅模試」という方法もあります。「在宅模試」の場合は、時間管理を厳重にして、しっかり「国家試験の模擬体験」をすることが大切です。

模試はあくまでも“場慣れ”と“度胸試し”。本番の緊張感と臨場感を味わい、時間配分や自分自身の体力配分を確認するものです。

大切なことは、結果や順位に一喜一憂しないこと。模試結果が上々だったので油断してしまい...ということもよく聞く話です。

むしろ模試ではおおいに挫折“を味わい、「これから本気になるきっかけ」としてください。

[28回24] の正解と解説

イギリスにおける貧困対策の歴史に関して、正しいのは3。

貧困対策は社会福祉のはじまりです。貧困問題に対してどのような態度をとるのかということに、ソーシャルワーカーとしての価値観・倫理観が端的に現れるといえます。

1×

新救貧法は、劣等処遇の原則を否定した。

新救貧法は劣等処遇の原則を採用し、貧民を侮蔑的に扱いました。

2×

慈善組織協会は、救済に値する貧民に対する立法による救済を主張した。

慈善組織協会は、慈善活動の組織化や訪問調査を行った団体です。

3○

ブースは、ロンドン貧困調査から「貧困線」という概念を示した。

ブースのロンドン調査、ラウントリーのヨーク調査が社会調査として有名です。

4×

老齢年金法は、貧困高齢者に資産調査なしで年金を支給した。

資産調査（ミーンズテスト）を実施した上で、老齢年金が支給されました。

5×

ウェップ夫妻は、「社会保障計画」を提唱した。

ウェップ夫妻が提唱したのは「ナショナルミニマム」です。「社会保障計画」は1942年のベヴァリッジ報告で示されたものです。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-19KDX浜松町ビル6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus